| 科目名 | 作詞・作曲４ | | | | | | | 年度 | 2026 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語科目名 | Songwriting and Composition 4 | | | | | | | 学期 | 後期 |
| 学科・学年 | ミュージックアーティスト科 2年次 | 必／選 | 選 | 時間数 | 30 | 単位数 | 2 | 種別※ | 講義 |
| 担当教員 | RINA MOON | | 教員の実務経験 | | 有 | 実務経験の職種 | | 作詞家 | |

【科目の目的】

個人のアーティスト活動やオーディションでパフォーマンス出来る、オリジナル楽曲を制作できるようになることを目的とする。メロディ作り、コード付け、作詞など音楽制作を行う上で必要不可欠なスキルを幅広く学び、授業内で制作した楽曲は、修了・卒業ライブなどで発表する。

【科目の概要】

「作曲」と「作詞」の二軸を中心とし授業を進めていく。音楽基礎など他の授業で学んだことが作曲とどのように関わり、どう活かしていけるのかを実際に試行錯誤しながら音楽制作を学んでいく。
また、楽器を演奏できる学生は楽器を用いながら、そうでない学生はクリエイターの学生とペアを組むなどしてメロディーとコードを作成することも可能。イントロ、A、B，サビなどのJ-POPのひな形を理解し、リファレンスとなる構成を決めて制作を進めていく。

【到達目標】

A. ライムスキームについて理解できる
B. オリジナリティを意識した作詞ができる
C. 英語を使用した作詞ができる
D. 様々な表現方法を使用した作詞ができる
E. タイトルを作成できる

【授業の注意点】

専門学校は出席率100%が基本であるため、理由のない遅刻や欠席は認めない。
教員の指示がない限り、授業と関係のない携帯電話・スマートフォンの使用を認めない。
授業時限数の４分の３以上出席しない者は定期試験・評価課題を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

| ルーブリック<br>評価 | レベル５<br>優れている | レベル４<br>よい | レベル３<br>ふつう | レベル2<br>あと少し | レベル１<br>要努力 |
|---|---|---|---|---|---|
| 到達目標<br>A | ライムスキームについて理解でき、実際に活用できる | | ライムスキームについて理解できる | | ライムスキームについて理解できない |
| 到達目標<br>B | オリジナリティを意識した作詞ができ、実際に活用できる | | オリジナリティを意識した作詞ができる | | オリジナリティを意識した作詞ができない |
| 到達目標<br>C | 英語を使用した作詞ができ、実際に活用できる | | 英語を使用した作詞ができる | | 英語を使用した作詞ができない |
| 到達目標<br>D | 様々な表現方法を使用した作詞ができ、実際に活用できる | | 様々な表現方法を使用した作詞ができる | | 様々な表現方法を使用した作詞ができない |
| 到達目標<br>E | 一曲に対して複数のタイトルを付けることができる | | タイトルを作成できる | | タイトルを作成できない |

【教科書】

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　10%　積極的な姿勢

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

| 科目名 | 作詞・作曲４ | 年度 | 2026 |
|---|---|---|---|
| 英語表記 | Songwriting and Composition 4 | 学期 | 後期 |

| 回数 | 授業テーマ | 各授業の目的 | | 授業内容 | 到達目標＝修得するスキル | 評価方法 | 自己評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 作詞(応用)① | ライムスキームについて学ぶ① | 1 | 韻の基本 | 韻の基本について理解できる | | |
| | | | 2 | 押韻構成 | 押韻構成について理解できる | | |
| | | | 3 | 脚韻 | 脚韻について理解できる | | |
| 2 | 作詞(応用)② | ライムスキームについて学ぶ② | 1 | J-Pop | J-Popにおけるライムスキームを理解できる | | |
| | | | 2 | RAP | RAPにおけるライムスキームを理解できる | | |
| | | | 3 | 代表的な作例 | 代表的な作例から分析できる | | |
| 3 | 作詞(応用)③ | 時代背景を意識した作詞を学ぶ | 1 | 文化 | 文化的な時代背景を意識した作詞ができる | | |
| | | | 2 | 流行物 | 現代の流行物を意識した作詞ができる | | |
| | | | 3 | 新語 | 新語を意識した作詞ができる | | |
| 4 | 作詞(応用)④ | オリジナリティ(独自性)の表現方法を学ぶ | 1 | 経験談 | 自分の経験をもとに作詞ができる | | |
| | | | 2 | 哲学と思想 | 自分の哲学と思想をもとに作詞ができる | | |
| | | | 3 | 独自の着眼点 | 独自の着眼点をもとに作詞ができる | | |
| 5 | 作詞(応用)⑤ | 意外性を利用した表現方法を学ぶ | 1 | 自己理解 | 自己理解の重要性を理解できる | | |
| | | | 2 | 客観的視点 | 客観的視点の重要性を理解できる | | |
| | | | 3 | 普段使わない言葉 | 普段使わない言葉を使って作詞できる | | |
| 6 | 作詞(応用)⑥ | 英語の歌詞の作り方を学ぶ① | 1 | ネイティブな英語 | ネイティブな英語について理解できる | | |
| | | | 2 | 日本語歌詞の英訳 | 日本語歌詞の英訳ができる | | |
| | | | 3 | 英語のリズム | 英語のリズムを意識して作詞できる | | |
| 7 | 作詞(応用)⑦ | 英語の歌詞の作り方を学ぶ② | 1 | 日本語との組み合わせ | 日本語と英語を組み合わせて作詞できる | | |
| | | | 2 | カタカナ表記 | カタカナ表記による印象の違いを理解できる | | |
| | | | 3 | 単語の異なる解釈 | 単語の意味の多様性を利用した表現ができる | | |
| 8 | 作詞(応用)⑧ | ストーリー性を意識した作詞を学ぶ | 1 | 全体構成の把握 | 楽曲の全体構成を把握できる | | |
| | | | 2 | 起承転結 | 起承転結について理解できる | | |
| | | | 3 | オチ | オチの重要性を理解できる | | |
| 9 | 作詞(応用)⑨ | 感情表現について学ぶ | 1 | 動的感情(Oh) | 動的感情(Oh)について理解できる | | |
| | | | 2 | 静的感情(Ah) | 静的感情(Ah)について理解できる | | |
| | | | 3 | 喜怒哀楽 | 喜怒哀楽の表現について理解できる | | |
| 10 | 作詞(応用)⑩ | キャッチーなフレーズの作り方について学ぶ | 1 | 覚えやすい | 覚えやすいフレーズの特徴を理解できる | | |
| | | | 2 | 発音しやすい | 発音しやすいフレーズの特徴を理解できる | | |
| | | | 3 | イメージしやすい | イメージしやすいフレーズの特徴を理解できる | | |
| | | | 1 | オノマトペ | オノマトペについて理解できる | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 作詞(応用)⑪ | オノマトペを使った表現方法を学ぶ | 2 | 情景描写 | 情景描写について理解できる | | |
| | | | 3 | 擬人法との組み合わせ | 擬人法との組み合わせについて理解できる | | |
| 12 | 作詞(応用)⑫ | ターゲットを意識した表現方法を学ぶ | 1 | 共感性 | 共感性について理解できる | | |
| | | | 2 | 年齢層 | ターゲットの年齢層を分析できる | | |
| | | | 3 | ラブソング | ラブソングの特徴について理解できる | | |
| 13 | 作詞(応用)⑬ | 外観的な表現方法を学ぶ | 1 | 区切り位置 | 区切り位置による印象の違いを理解できる | | |
| | | | 2 | 当て字 | 当て字による表現方法を理解できる | | |
| | | | 3 | 漢字の使い分け | 漢字の使い分けによる印象の違いを理解できる | | |
| 14 | 作詞(応用)⑭ | タイトルの付け方を学ぶ | 1 | タイトルの重要性 | タイトルの重要性について理解できる | | |
| | | | 2 | 曲中の言葉 | 曲中の言葉を使ったタイトルをつけられる | | |
| | | | 3 | 曲中にない言葉 | 曲中にない言葉を使ったタイトルをつけられる | | |
| 15 | 発表会 | 2年次に制作した作品(歌詞)を発表する | 1 | プレゼンテーション | 自分の作品をプレゼンできる | | |
| | | | 2 | 批評 | 他者の作品を批評できる | | |
| | | | 3 | 講評 | 講師から講評をもらい、新しい課題を設定できる | | |

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等